

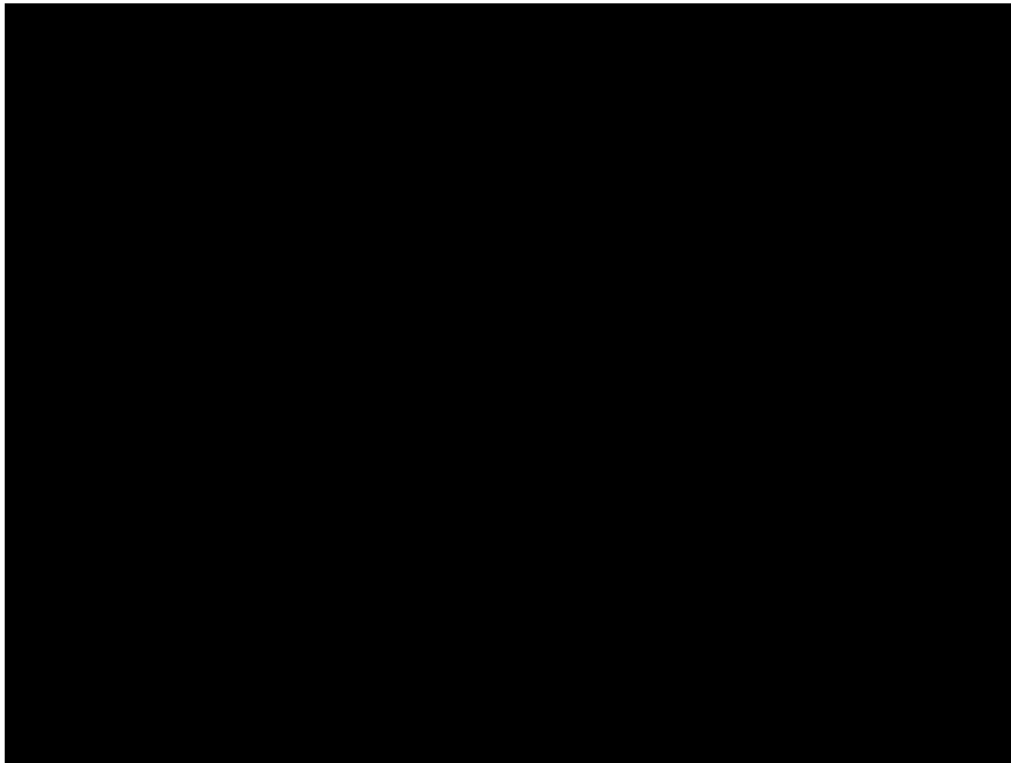
宇治矢落擁壁復旧工事にかかる対応について

大雨により令和3年に損壊した宇治矢落地内の擁壁（市管理施設）の復旧工事が令和5年8月に終了したところですが、工事に伴う近接家屋への影響と、その対応状況について報告します。

この工事の影響により、現場に近接する8軒の家屋に、傾きや亀裂等が生じたことから、対象家屋の方々に対しましては、家屋調査の結果等に基づき、補償対応について協議を進めているところです。

1 工事現場及び工事影響があった箇所について

(1) 工事現場及び近接家屋



(2) 主な施工手順

「資料1 施工手順平面図」を参照。

2 工事影響の発生とその対応の経過

詳細は、「資料2 擁壁復旧工事にかかる対応の経過」を参照。

- ・令和5年5月18日～22日
擁壁完成に伴い、土留めの鋼矢板を撤去。
- ・令和5年5月22日
近接家屋から市に対し、家の周りに亀裂が発生しているとの通報を受けて訪問。直ちに、家屋調査（現場に隣接する4軒の事後調査）を実施。
⇒ 調査の結果、家屋の傾きや亀裂等の発生を確認。以降、測量による経過観察を継続。
⇒ 土間やブロック塀等の亀裂が大きい箇所について、雨水の浸水を防止するため、シート養生を行った。
- ・令和5年6月下旬～7月上旬
現場に隣接する4軒に生じた影響を踏まえ、調査範囲を拡大（近接する4軒を追加）して家屋調査を実施。
- ・令和5年7月中旬～8月上旬
工事用地の地盤対策として、薬液注入工事を実施。
⇒ 以降、沈下は発生していない。
- ・令和5年8月中旬～11月
8軒の家屋調査（薬液注入工事後）を実施。
- ・令和5年8月下旬
土間やブロック塀等の亀裂が大きい箇所の応急修繕を実施。
- ・令和5年11月～
 - ・家屋調査の結果を8軒に報告。薬液注入工事後は地盤沈下なし。
 - ・補償額積算を、家屋調査結果に基づき開始。
- ・令和6年1月～
補償額の積算と並行して、現地訪問により補修工事の施工方法の確認を行い、補償額を精査中。

3 工事影響の状況（8軒の状況）

以下の寸法（ミリ、センチ）は、工事影響で新たに発生、又は、既存の亀裂等が拡大したものの。

- ・地盤沈下

数ミリ～約7センチ

※家屋の傾きは、8軒のうち5軒に生じた。

- ・土間の亀裂

1ミリ未満～約1センチ

- ・ブロック塀等の亀裂

1ミリ未満～約2センチ

- ・床、柱の傾き

床や柱の長さ1メートルあたり、傾きが1ミリ未満～約1センチ

- ・建具の隙間等

1ミリ未満～1センチ未満

4 主な原因について

鋼矢板引抜き箇所への埋め戻しについて、一般的な工法「砂水締め（※）」を行ったものの、結果として、近接家屋に影響が生じていることから、当該工法では十分ではなかった可能性があると考えています。

なお、薬液注入工事後の変状はありません。

（※）…鋼矢板を引き抜いた箇所の隙間に砂を投入し、水で締める工法。

5 今後の対応

（1）8軒への訪問等の対応

工事による影響が判明した昨年5月下旬以降、対象家屋に継続して訪問し、お詫びを申し上げるとともに、調査結果や補償方法について説明をしています。

今後も引き続き、誠意をもって対応していきます。

（2）8軒への補償対応

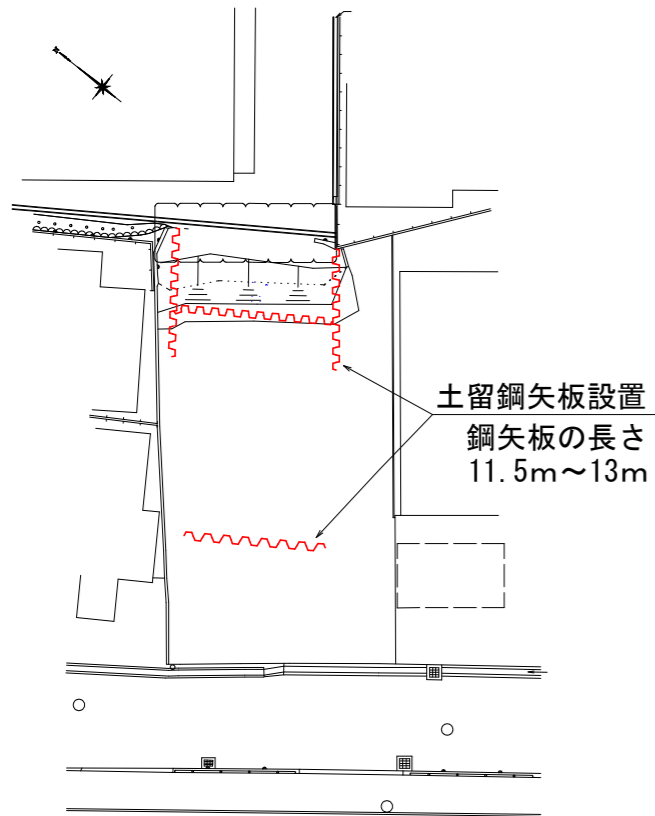
現在、補償額の積算と並行して、現地訪問により補修工事の施工方法の確認を行い、補償額を精査しています。積算が固まり次第、対象家屋の方々と補償対応に向けての協議を行う予定です。

（3）補償対応するにあたって

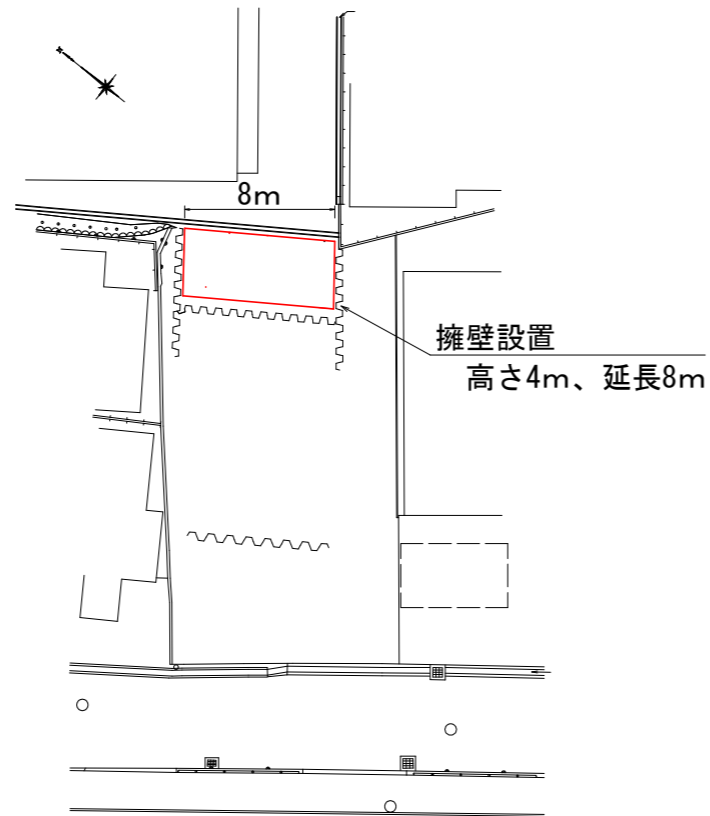
補償金額に応じて、損害賠償額の決定にあたっての議決が必要となるため、今後、提案時期等につきましては議会と調整します。

施工手順平面図

＜ステップ1＞
令和4年12月～ 土留鋼矢板設置

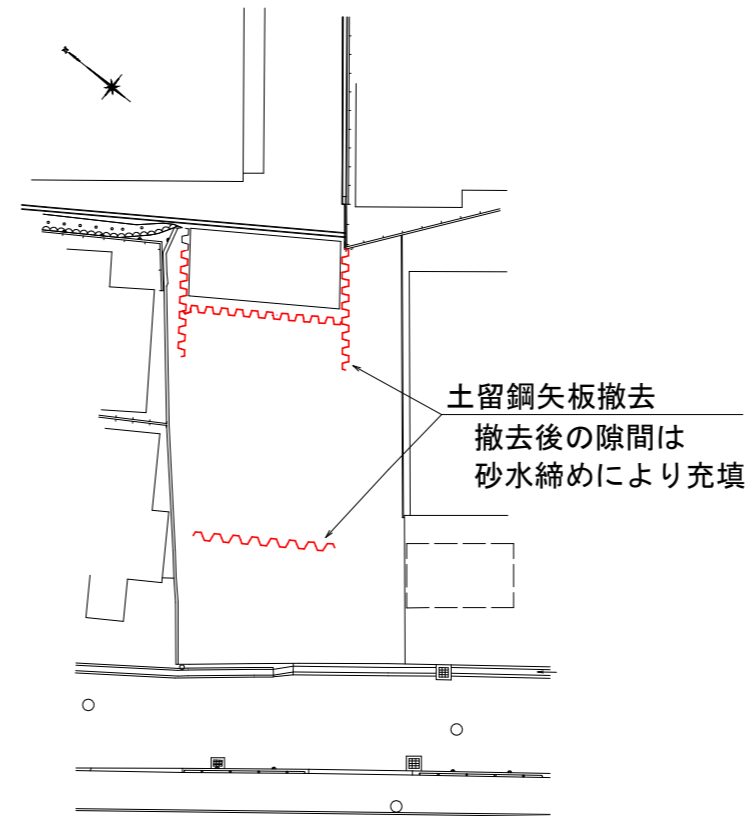


＜ステップ2＞
令和5年2月～ 擁壁設置



＜ステップ3＞
令和5年5月土留鋼矢板撤去

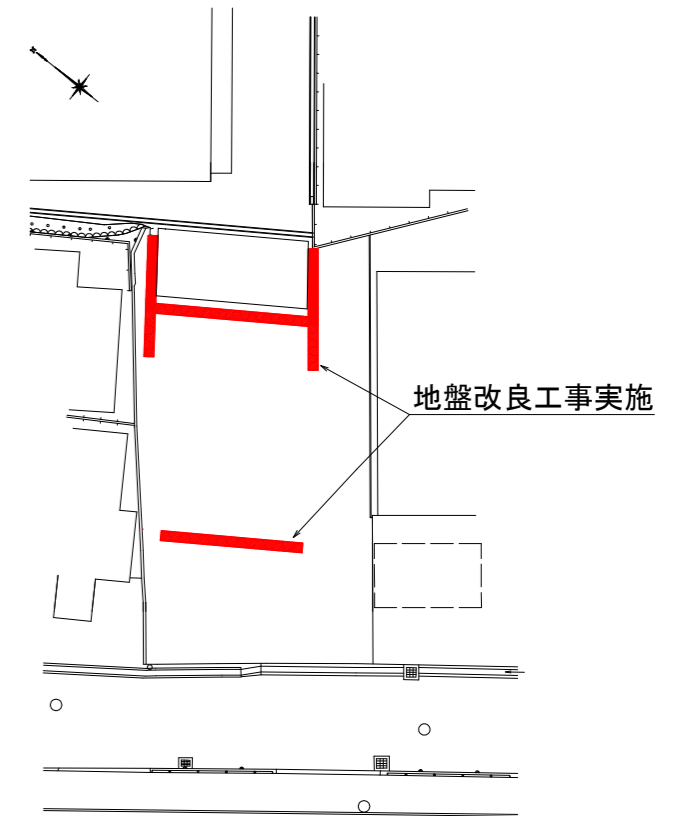
鋼矢板撤去後、近接家屋に傾きや亀裂が発生。



＜地盤改良工事の概要＞
令和5年7～8月実施

鋼矢板を撤去した箇所の地盤改良工事（薬液注入工事）を実施。

→ 地盤改良工事後、沈下は発生していない。



擁壁復旧工事にかかる対応の経過

資料 2

	R4年		R5年												R6年		
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	
擁壁復旧工事			着工														
								5/18~22 鋼矢板の撤去		7月中旬~8月上旬 薬液注入工事							
地元対応								● 5/22 住民から通報を受け訪問 ● 直ちに、家屋調査 ● 亀裂が大きい箇所に浸水防止のシート養生 ⇒ 以降、近接家屋への訪問を継続 ・ 工事影響があった方々への謝罪 ・ 家屋調査の調査結果、補償方法等について、都度訪問して説明 ⇒ 以降、地盤の高さの現地計測を継続			応急修繕の実施 (亀裂の大きい箇所)						
家屋調査		家屋調査(事前) 隣接する4軒の調査						家屋調査(事後) 隣接する4軒の工事影響を確認		更に、 近接する4軒を追加(計8軒)			薬液注入工事後の調査(8軒)				
補償額の積算																	補償額の積算(業務委託) 並行して、現地訪問により補修工事の施工方法を確認のうえ、補償額を精査中。

薬液注入工事後は、沈下なし。

地元への対応

薬液注入工事後は、沈下なし。